

支局長
からの
手紙

出雲市出身の映画監督、錦織良成監督(52)の最新作「たたら侍」の撮影が今秋から始まります。錦織監督にとって島根を舞台にした5作目の作品で、初めての時代劇。映画をPRするイベントが先日、松江市の県民会館であり、出向きました。

イベントには、錦織監督や制作に参加する人気グループ「EXILE」のHIROさん、AKIRA Aさん、NAOKIさん、主演を務める劇団EXILEの青柳翔さんら豪華な顔ぶれに写真に加え、E-girlsのミニライブ、石見神楽や掛合太鼓の社中・保存会の共演もありで、満員の会場はワイワイと大変な盛り上がりを見せました。

映画は、奥出雲町に伝わる伝統の製鉄法「たたら」をモチーフにした時代劇。今秋に部分的な撮影

を開始し、来夏から本格的な撮影に入り、公開は2016年の予定です。映画の撮影にもまた入らず、出演者も青柳さんやAKIRAさん、NAOKIさん以外はまだこれから決めるという時点で、宣伝のためにこれほど大規模なイベントが開かれたケースは恐



らくあまりないでしょう。本当に驚きました。

錦織監督とのトークはみんな熱かったですね。錦織監督は「元々が島根には本物があると思って映画を作ってきた。日本でしか作れないものを島根で作ろうと、今燃や

島根から世界へ

ている。島根から世界を驚かせる映画を作りたい」と語ると、HIROさんは「島根から日本中を、世界中を巻き込みたい。世界に通用する最高の映画にしたい」、「世界に日本の底力を見せるのは島根からと思っている」(AKIRAさん)、「日本の国の原点、島根を盛り上げられたら」と思っていた(NAOKIさん)、「これが島根だと胸

を張って言える映画にした」(青柳さん)と、映画に向けての思いを次々と語りました。またイベントのために、HIROさんやキャスト、スタッフ約150人は自腹で松江に来たとか。本気度を感じます。

以前このコラムで書きましたが、前任地の新潟県・長岡で、映画4本に出演しました。その経験からすると、特に地方での映画づくりはまちおこしの一環になると思えます。島根は本当にソフトが素晴らしい地域です。映画を通じて島根の伝統や文化などの良さが、日本中に、いや世界中に知れ渡れば人も集まってくるでしょう。

地方でしか撮れない映画、というのは確実にあります。自然豊かで昔ながらの街並みが残る島根に、ロケに適した場所はいくらでもあてでしょう。島根再生に向けてのキーワードの一つは、映画づくりではないかと感じています。「たたら侍」を機に、一過性ではなく将来を見据えてさまざまな映画のロケを積極的に誘致する組織をきちんと作り、島根を「映画の街」にできないでしょうか。決して夢物語ではないと思うのです。

【松江支局長・岡村昌彦】